

GCAサヴィアン
欧州ニュースレター 2014年3月
 Vol.2 フランス

はじめに

今回は欧州2番目の経済規模を誇るフランスを特集させて頂きました。

ドイツ以北をEU北側諸国、フランス以南をEU南側諸国と分け、フランスを筆頭とした南側諸国が欧州危機からの回復の足を引っ張っているといったトーンの評価をよく目にします。確かにフランスはGDP成長率も低迷し、失業率も10%を超える高い水準で高止まりしており、欧州危機から脱したと宣言するには時期尚早と思われます。2014年に目を向けてみれば、政府は2014年の実質GDP成長率を0.9%と予測しており、長いトンネルを抜ける兆しが見えつつあります。成長回復の原動力は、GDPのほぼ6割を占める個人消費による景気の牽引がメインであり、輸出も米国やドイツ向けを中心に持ち直しが期待されています。

M&Aの観点で見れば、2014年は完全に景気が回復し買収価格が高騰する前の「回復の兆しが見えたタイミングでのターゲット企業買収」という戦略が検討できるタイミングともいえるのではないのでしょうか。

フランスと聞くとお洒落な観光大国というイメージが頭に浮かびます。事実として、パリは世界最大の旅行口コミサイト「トリップアドバイザー」の人気観光地ランキングではニューヨーク（2位）、ロンドン（3位）をおさえて堂々の1位とのことです（ちなみに東京は15位）。街並みが綺麗、買い物が楽しいといったことだけでは1位にはなれません。やはりフランス人が持つ独特の雰囲気やライフスタイルが、歴史ある街並やセンス光るブランド、食文化と融合し、パリに行きたいという感情を強めるのだと思います。ライフスタイルについていえば、食事にしっかりと時間をかけ、バカンスも思い切って長期間取得するといったフランス人の生活スタイルを見るに、本当に人生をエンジョイするのが上手な国民と感ずます。

さて、フランスは現在どのような状態にあるのでしょうか？状況が許せば、是非フランスワイン片手に本レポートをお読みください。

GCAサヴィアン
フランクフルトオフィス
村井 慎

1. フランス概況

実質GDP成長率
(2013年予想値)

+0.2%

※ 2012年0%から増加
※ 日本は+1.7%予想

消費者物価上昇率
(2013年予想値)

1.0%

※ 2012年+2.2%から減少

失業率
(2013年12月)

10.8%

※ EU28か国平均は10.7%

- フランス社会党のオランド大統領は、2014年の具体的な政策の目玉として、政府が企業の税負担や事業に関わる行政手続きを軽減する見返りに、企業に対して雇用創出や労使協議の活性化を求める「責任協定」の策定を提案しました。
- 今回の改革で2014年から賃金支払総額の4.0% (2015年6.0%) を法人税から控除する「競争力・雇用税額控除(CICE)」が適用となり、新たに「2017年までに企業および個人事業主に対し、家族手当に関わる社会保険料(賃金総額の5.4%)を撤廃する」方針も出されたことは注目に値します。
- 一方で、今後は新規雇用者数、若年雇用および高齢者の雇用者数についての目標値が設定されることが予想され、フランスM&A実行時には労務制度改革の行方に十分な留意が求められます。

2. フランスM&A (2013年度)

日仏案件数
(公表のみ)

14件
(うち3件はフランス企業による
日本企業買収)

主な日仏案件

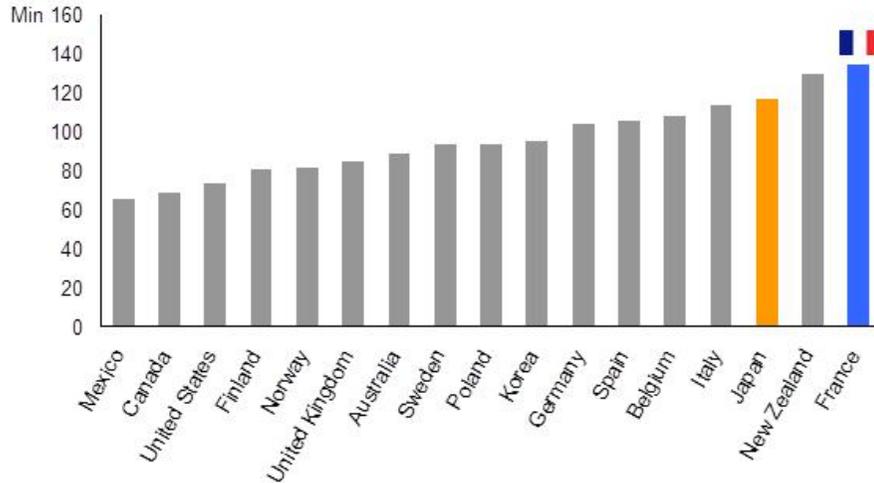
- Dimension Data (NTT子会社)によるNextiraOne買収(12月/金額非公表)
- NTT ComによるArkadin International SAS買収(8月/金額非公表)

ホットなセクター

- ハイテク(4件)
- エネルギー・電力(2件)

- 日仏案件は2011年 - 2013年の過去3年間で49件(内、日本企業によるフランス企業買収案件は37件)となっております。内訳をみれば、2013年14件、2012年17件、2011年18件と、安定して年間10件を超えています。
- 昨年はNTTグループによるフランス企業案件2件を筆頭に、富士通、キヤノンなどを加えたハイテク関連案件が多く見られました。
- 豊田通商は2012年に2,280百万ユーロでフランスのCFAO社を買収しました。同社は世界34か国で事業を行っていますが、そのうち32カ国がアフリカ諸国です。フランスは歴史的・地理的・言語的にアフリカに近く、この案件で見られたようなフランス企業を通してアフリカ市場へのアクセスを得るといった狙いを持った案件も、今後は増加してくるものと考えられます。

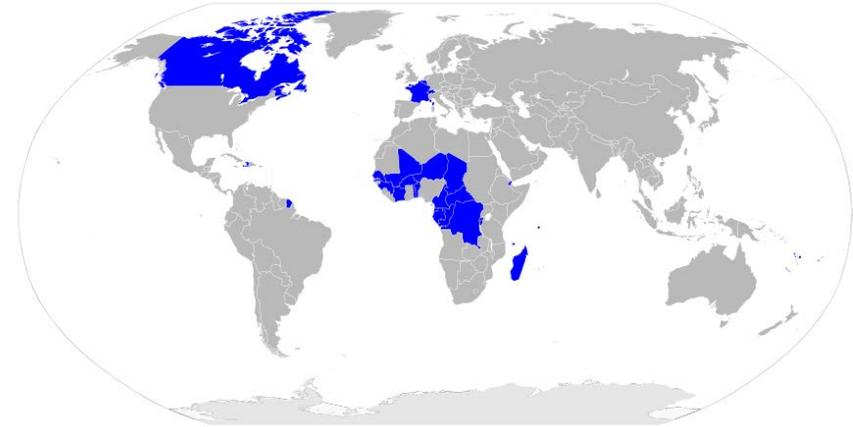
3. 一日当たりの食事時間



(出展) Society at a Glance 2009: OECD Social Indicators

- 2009年にOECDが世界各国の一日当たりの食事時間の統計を発表し、フランスは135分で世界一という結果になりました。
- 例えば米国は74分ですが、ファーストフード市場が発展している米国に比べ、レストランでゆっくり食事をするをとても大切にするフランスとで大きな開きが出たことは、非常に興味深い結果です。
- フランス人は料理、休息、誰かと一緒に食事を取ることを非常に大切にする習慣があり、特に家族と食事を一緒に食べることについては強いこだわりがあるとのことです。日本人は会社中心生活とよく指摘されますが、皆様はご家族との食事時間、確保できていますでしょうか・・・？
- フランスといえばワインですが、これまで世界一の赤ワイン消費量を誇っていたフランスが、2013年に中国に抜かれた模様です(3位イタリア、4位米国、5位ドイツ)。フランスの赤ワイン消費量は、2007年から18%も減少しているとのことです。

4. 公用語ランキング世界第2位！



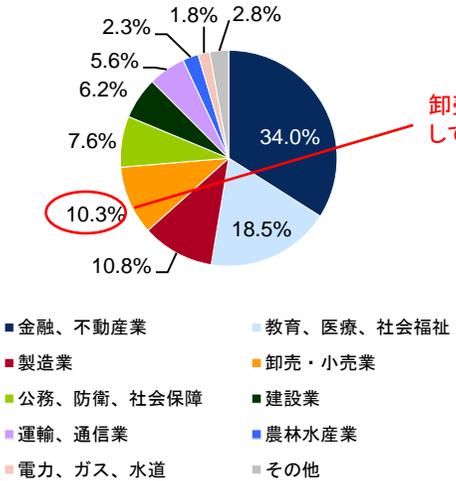
(出典) Wikipedia

- 世界の公用語ランキング(国数)では英語が63か国で群を抜いてトップなのですが、実はフランス語は36か国で公用語となっており世界第2位です。ちなみに、世界のフランス語人口は2億2,000万人で、世界の使用言語人口ランキングで8位とのことです。
- アフリカではコンゴ、マダガスカル、コートジボアールなど24か国がフランス語を公用語としており、フランスとアフリカの歴史的な結びつきの深さを感じさせます。
- 2014年は1964年の東京オリンピックの50周年記念の年です。2020年のオリンピック開催地招致のプレゼンにおいて、プレゼンターの方々がフランス語を使用するシーンが見られましたが、国際オリンピック総会(IOC)公用語は第一言語としてフランス語、次に英語となっており、なんとメンバーの半数以上がフランス語を母語としているそうです。ちなみに、国連事務官の作業言語は英語とフランス語、国連の公用語は英語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、アラビア語の6か国語となっています。

France

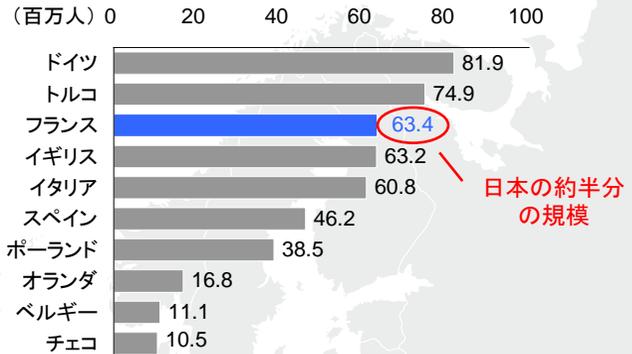
GCA Savvian

産業構造 (2013年度)



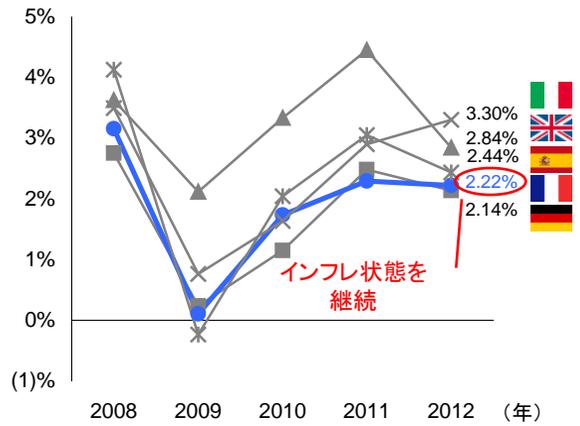
卸売・小売が突出して高いわけではない

人口 (2012年度)



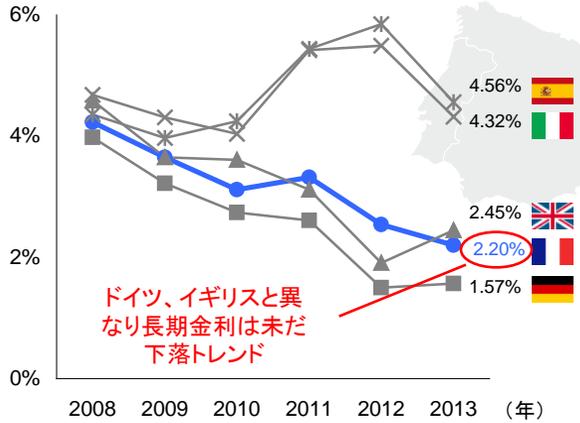
日本の約半分の規模

インフレ率



インフレ状態を継続

10年国債金利



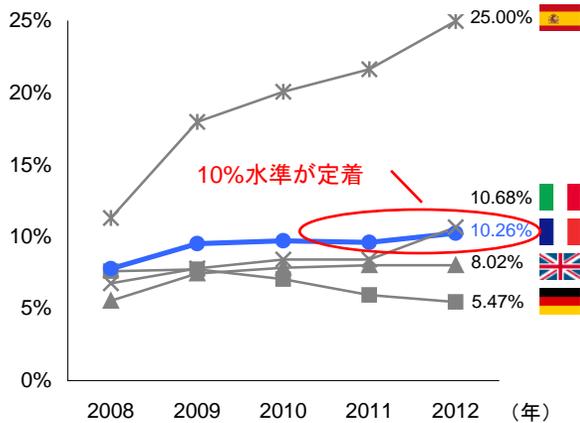
ドイツ、イギリスと異なり長期金利は未だ下落トレンド

消費財関連のみならず、エネルギー、ヘルスケア、金融、製造業と多くのグローバル企業が活躍

フランスのグローバル企業



失業率

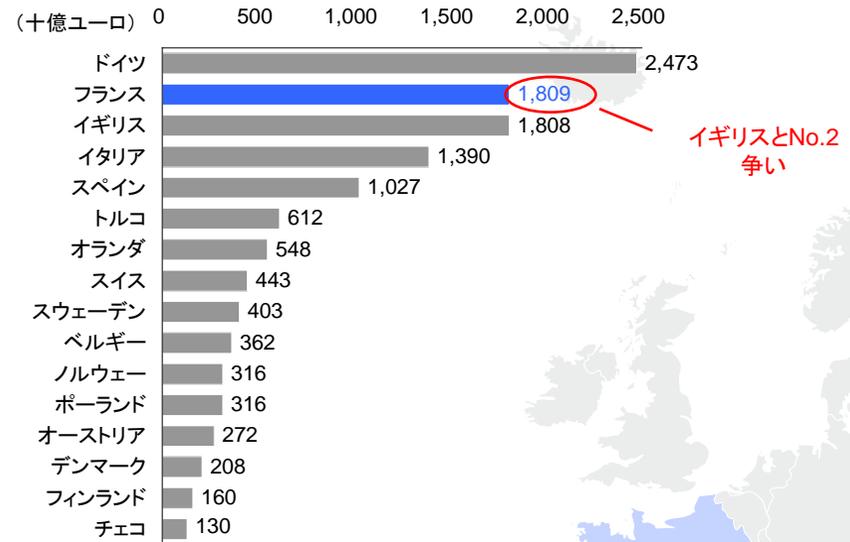


10%水準が定着

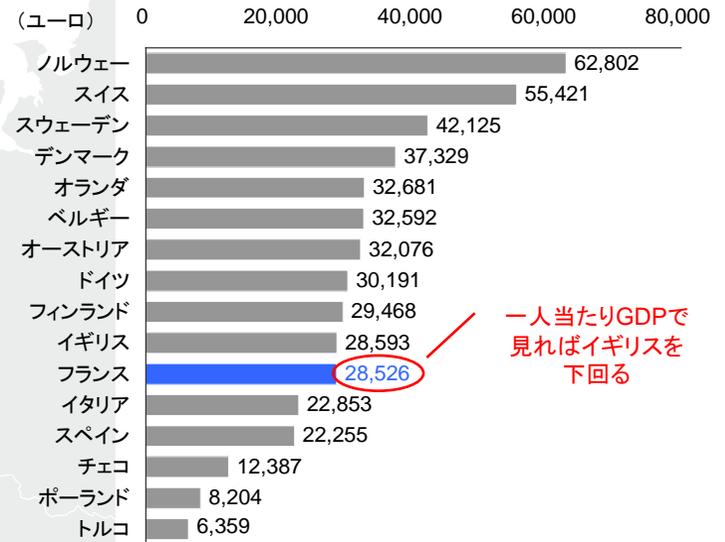
France

GCA Savvian

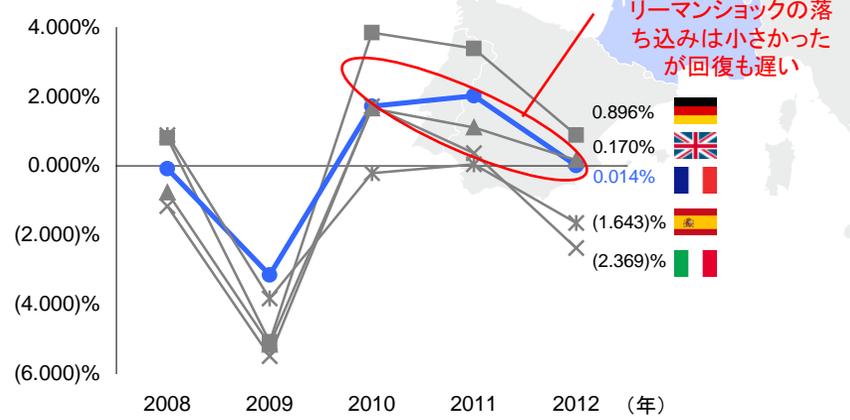
GDP (2012年度)



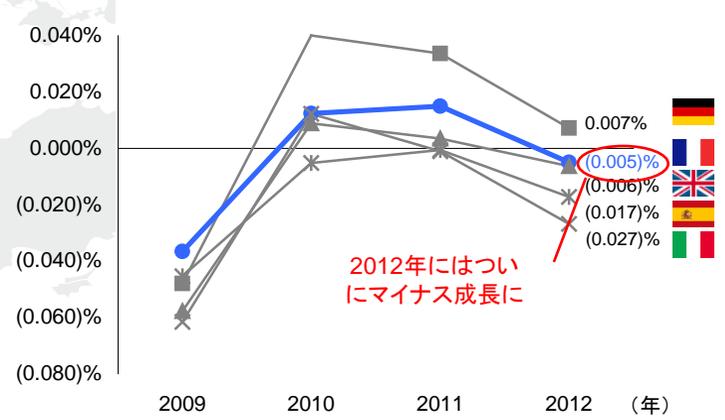
一人当たりGDP (2012年度)



GDP伸び率



一人当たりGDP伸び率



お問い合わせ先:



村井 慎 / Shin Murai

Director

Direct (Germany): +49-69-170099-99

Mobile (Germany): +49-172-6324998

Email: smurai@gcakk.com

GCA Savvian Corporation - Frankfurt

OpernTurm - Bockenheimer Landstraße 2-4, 60306 Frankfurt am Main,
Deutschland

<http://www.gcasavvian.com/>